

スポーツが変える、 人と社会と 未来

東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会が近づき、
スポーツを通じた活動に対する機運が日に日に高まっています。
ご自身がオリンピック金メダリストでもあるスポーツ庁の鈴木大地長官に、
スポーツを通じてどのような社会づくりを目指すのか、お話を伺いました。

オリンピック・ パラリンピックの 先にあるもの

東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会(以下、東京2020大会)のオリンピックまで1000日を既に切り、パラリンピックまでまもなく1000日を切ろうとしています。私は選手として2回目のオリンピックに出場したときは、「出る」だけではなく「メダルを獲る」という強い思いで臨んでいました。怪我で思うように泳げずに焦ったり、しっかり治していこうと気持ちを切り替えたり、4年の間にいろいろと考えなければならぬことがあり、時間が足りないと思っていました。今、選手や指導者を

サポートし、大会を準備する側に回ってみても、やはり取り組むべきテーマが山積していると感じます。毎日大切にしていかなければなりません。

東京2020大会で日本が優れた成績を残せるように支援するだけでなく、その取り組みが2020年以降も継承されていくようにすることが大切です。そこで、強力で持続可能な支援体制をつくり上げていくため、「競技力強化のための今後の支援方針」を策定しました。これを通称「鈴木プラン」と呼んでいます。日本では少子化が進んでいきますが、競技力の向上というテーマはずっと続いていきます。効率良く選手を発掘、育成、強化することを大きな目標の一つとしています。

スポーツ庁 長官 鈴木 大地

すずき・だいち●元水泳日本代表選手。高校在学中の1984年、ロサンゼルスオリンピックに初出場。1988年、ソウルオリンピックの100m背泳ぎでは、日本競泳陣16年ぶりとなる金メダルを獲得する。現役引退後は日本水泳連盟会長などを経て、2015年、初代スポーツ庁長官、東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会理事に就任。2017年7月からは国際水泳連盟理事も務める。

次の世代にもたらす夢

次世代の選手の発掘・育成という観点では、JALが「JALネットワークスリート・マイル」として、若手アスリートをサポートを目的に、JALマイレージバンク会員からマイル寄付を募り、集まったマイル相当額と同額をJALからも拠出する支援を行っていること、また、「JALネットワークスリートプロジェクト」として、全国で子どもたちのスポーツ能力を測定するイベントや、パラリンピックを目指すアスリートの発掘に取り組んでいることなどを聞いています。若い才能と出会う可能性が広がっていくのは、とてもうれしいですね。「もしかしたらオリンピック選手、パラリンピック選手になれるかもしれない」というのは、ご本人だけでなく、ご家族やご友人、大勢の同世代に夢と希望をもたらしてくれそうです。

特にパラリンピックに関しては、選手を発掘するのが非常に難しいのです。リオデジャネイロに視察に行った際、日本は各国に比べてパラリンピック選手の数が少ないと感じました。特別支援学校などでパラリンピックのことをもともと知ってもらうなど、スポーツに触れる環境を一つ一つ整えていく

ことが重要ですね。東京2020大会を機に、あらゆる人たちがスポーツに親しむ国にしていかなければならないと思っています。

スポーツを通じて 目指す社会

今から5年間は、わが国のスポーツにとって、非常に重要な時期です。2019年のラグビーワールドカップ、東京2020大会、2021年の関西ワールドマスターズゲームズという、国際スポーツのメカイベントが続きます。スポーツを取り巻く環境を変える良い機会だと捉えています。

スポーツとは、「気晴らし」といった意味のラテン語「deportare（デポルターレ）」が語源といわれていて、「楽しさ」や「喜び」がその価値の中核です。この原点に立ち帰り、スポーツは、競技力向上に留まらない、非常に幅の広いものだということを発信していきたいと思っています。文部科学省の第1期スポーツ基本計画を引き継ぎ、スポーツ庁として初めて、2017年度から2021年度までの5カ年計画の第2期スポーツ基本計画を策定しました。「スポーツが変える。未来を創る。Enjoy Sports.



Enjoy Life」という基本方針のもと、すべての人がスポーツの力で輝くことにより、前向きで活力ある社会と、絆の強い社会をつくることを目指しています。

若い人たちのなかには、東京2020大会に選手として参加することが目標の人もいるでしょう。多くの人にとっては観る、あるいはボランティアとしてその大会を支えるという参加の仕方もあるでしょう。大勢の人がそれぞれの形でスポーツにかかわる土台をつくっていくことが、東京2020大会の成功はもちろん、スポーツ立国実現のカギになってくると思います。

「スポーツ」×「観光」 ＝「スポーツツーリズム」

東京2020大会をきっかけに、スポーツで地域活性化もできることを皆さんに再認識していただく機会にしていきたいと思っています。スポーツをする人、観る人が集まり、それらを支えていくということは、交通機関や宿泊施設、飲食店など、さまざまな領域に経済効果が広がっていくということなのです。

例えば、ラグビーワールドカップ

は、大会開催地が日本全国12カ所にも及び、日本だけでなく世界中から大勢の人が会場まで旅をします。また、今やマラソン大会だけでも全国で約3000あると言われていて、毎週のようにどこかで開催されています。飛行機に乗って現地に行くこともあふでしょう。スポーツをした後は現地に宿泊して名所旧跡を訪ねたり、その土地の食を楽しんだりすることもあふでしょう。こうした「スポーツ」と「観光」を掛け合わせた動きを「スポーツツーリズム」と呼んで、幅広い産業と連携しながら戦略的に活性化させ、社会に定着させていきたいと考えています。

地域スポーツ コミッションと アウトドアスポーツ 推進宣言

スポーツツーリズム推進のエンジン役となり、スポーツを通じた地域活性化の中心的な役割を果たすのが、「地域スポーツコミッション」という組織です。それぞれの地方自治体やスポーツ団体、スポーツ産業、観光産業などが共同体となり、横の連携を取りながら、地域スポーツ大会・イベントの開

Hot Issues

スポーツが変える、 人と社会と未来

催、国内外の大規模なスポーツ大会の誘致、プロや大学のスポーツチームの合宿誘致などに取り組むというものです。

スポーツ庁が地域スポーツコミッションの活動を支援した事例としては、「スポーツリンク北上」(岩手県北上市)の取り組みが挙げられます。冬の観光資源である夏油高原スキー場や桜の名所100選でもある国見山周辺にトレイルランやサイクリング、ウォーキングコースをつくり、観光ピーク期以外にもアウトドアスポーツを活用した誘客が可能な観光まちづくりを展開しています。こうした取り組みを全国各地で広げていきたいですね。

こうしたアウトドアスポーツがスポーツツーリズム推進のカギになると考えて、この6月に「アウトドアスポーツ推進宣言」を発表しました。日本には山や川、海、湖など、その地域ならではの「お宝」が既に豊富にそろっているうえ、アウトドアスポーツには、安全に配慮し、自分のレベルに合ったものを選べば、年齢や体力にかかわらず、複雑な技術やルールを習得しなくても手軽に楽しめるものがたくさんあります。また、より楽しむためには、用具やウェアなどをそろえてみたくなるものです。関連産業への波及

効果も期待できて、広い分野の活性化につながるものと考えています。

スポーツと 訪日外国人観光客

スポーツツーリズムを盛り上げていくことは、訪日外国人観光客の増加にもつながると思っています。訪日外国人観光客を対象としたアンケート調査によれば、「次は日本で何をしたいか」という質問に「スポーツ体験」といった回答も多いようです。日本には高品質のパウダースノーもあれば、ほぼ一年中マリンスポーツを楽しめる亜熱帯地域もあって、四季を通じて多様なスポーツ体験ができるという条件がそろっています。さらに新しい地域ブランドや日本ブランドを確立・発信するために、スポーツ庁では文化庁、観光庁と2016年に包括的連携協定を締結しました。その一環として、スポーツと文化芸術資源を組み合わせたツーリズムの優れた取り組みを表彰する「スポーツ文化ツーリズムアワード」をつくり、2016年度はサイクリストの聖地「瀬戸内しまなみ海道」を核としたサイクルツーリズム（瀬戸内しまなみ海道振興協議会）を大賞に、また世界遺産姫路城マラソン

（兵庫県姫路市）をスポーツ庁長官賞に選んでいます。こうした取り組みを積み重ねていき、魅力的なコンテンツづくりを進めることで、2020年までに訪日外国人観光客4000万人という政府目標達成に寄与していきたいと考えています。

産業界とも一丸となって

2015年度には、スポーツを旅の目的として日本を訪れる外国人観光客は約138万人、スポーツツーリズムの関連消費額は2204億円程度だったと推計されています。スポーツ庁では、これを2021年度までにそれぞれ250万人、3800億

円にすることを目標としています。この達成には官民一体となった取り組みが不可欠です。

例えば、JALには、お客さまとの多様な接点を通じて、日本の奥深さを発信してほしいと思います。機内誌をよく読むのですが、乗務員の方がいろいろな地域で集めた観光スポットや食の情報を取り上げるコーナーで、おすすめのスポーツ体験を載せていたり、機内モニターでのプログラムで日本でのスポーツ体験を映像で紹介いただけたりとするとありがたいですね。東京2020大会を大きな節目として、スポーツの力を通じて、ともに日本の未来をつくってほしいと考えています。



スポーツが変える、
人と社会と未来